

# ハンガリー語の音素と発音

## —日本人学習者のために—

下内 充<sup>1</sup> アルベケル・アンドラーシ<sup>2</sup>  
(1: 管理栄養学科 2: 子ども発達学科 [非常勤講師])

### 要 約

本稿は次の4点を念頭に、発音指導の観点からハンガリー語と日本語の音声と比較する。①「通じるハンガリー語」を目指す。② 近似音は日本語の音声で代用する。③ 代用できない場合、発音方法を解説する。④ 片仮名転写は推奨しないが、近似音を得るために一部利用する。

ハンガリー語(標準口語)に14の母音音素と25(24)の子音音素がある。母音音素では円唇母音に注意を払う必要がある。子音音素の多くが日本語に近似音または異音として存在している。[f] [v]のように英語で馴染みのある子音もあるが、ハンガリー語特有の子音として[c] [ɟ]の発音を新しく習得する必要がある。

子音の同化と融合の一覧と、ハンガリー語のアルファベットによる50音図を参考に付した。

キーワード: ハンガリー語、日本語、音声指導、対照言語学

### 1. はじめに

欧州連合の公用語の一つであるハンガリー語を主専攻として専門的に学べる大学は大阪大学が唯一であるが、選択科目として関西外国語大学・城西国際大学・東海大学・北海道大学においてもハンガリー語講座が開講されている。<sup>1)</sup> また、公開講座として東京外国語大学でも教えられているほか、過去にはアジア・アフリカ言語文化研究所や愛知産業大学短期大学でも講座が実施された。

<sup>2)</sup> 高等教育機関のほか、ハンガリー語を教える語学学校も幾つかある。なお、ハンガリーに約150の日系企業が進出しているため、企業向けの語学研修の需要もあると思われる。実際、中部地方ではアイザック外国語スクールが海外赴任前語学研修を毎年実施している。

ハンガリー語の学習教材の概観として渡辺(2017)、辞書・語彙集に関してMáté(2009、ハンガリー語)が詳しい。最新の学習書には『ハンガリー語の入門 改訂版』(早稲田 / コヴァーチ著、白水社、2019)があり、辞書では2015年に出版された『Japán-magyar nagyszótár 日本語・ハンガリー語大辞典』(Japán Stúdió Alapítvány / 日本学基金)がある。

このようにハンガリー語は以前より学習しやすくなってきたと言えるが、新しい洪日大辞典(洪=ハンガリー)の刊行が期待される。

本稿では以下の3点を念頭に、発音指導の観点からハンガリー語と日本語の音声と比較する。

- 1 目標は「通じるハンガリー語」である。
- 2 近似音は日本語の音声で代用する。
- 3 代用できない場合、発音方法を指導する。

また、カタカナ転写は出来るだけ使用しない。ハンガリー語だけではなく、多くの語学教材にカタカナ転写が併記されているが、カタカナで表せる音には限界があるため、却って通じにくい場合もありうる。学習者は最初の段階で発音法と文字の読み方を身に付けければ、カタカナの必要性はほとんどなくなると考えられる。

### 2. ハンガリー語のアルファベットについて

ハンガリー語のアルファベットとして表示される44種類の音声は、外来語に使用されるq w x y と、ly (jと同じ発音をする)を除いてそのまま音素の数である。<sup>3)</sup> このアルファベットの中で使用される文字は英語において使用されるものと変わらないが、次の4点において使用方法が異なっている。(右の名称の音声表記のあとにさらに音声表記がある場合はその文字の読み方(音価)を

表す。)英語のアルファベット名と比較して注意すべき点を順に見てみたい。<sup>4)</sup>

### 1 同じ文字でも読み方が異なるもの

- a [ɔ] 英語のように [ei] [æ] とは読まない。  
 c [tse:] [ts]  
 e [ɛ] [ɛ] 英語のように [i:] とは読まない。  
 g [ge:] [g] 英語のように [dʒi:] とは読まない。  
 h [ha:] [h]  
 i [i] 英語のように [ai] とは読まない。  
 j [je:] [j] 英語のように [dʒei] とは読まない。  
 o [o] 英語のように [ou] とは読まない。  
 s [ɛʃ:] [ʃ] 英語のように [s] とは読まない。<sup>5)</sup>  
 u [u] 英語のように [ju:] とは読まない。

### 2 母音文字に補助記号を付けて音量、音質を変えるもの

- á [a:] 長音化  
 é [e:] 長音化  
 í [i:] 長音化  
 ó [o:] 長音化  
 ö [ø] 円唇化  
 ü [y] 円唇化  
 ó [ø:] 長音化と円唇化  
 ú [y:] 長音化と円唇化

### 3 2つの文字で一つの音声を表すもの

- cs [tʃe:] [tʃ]  
 dz [dze:] [dz]  
 gy [ʒe:] [ʒ]  
 ly [ɛl:ipsilon] ([ɛj:] [j])<sup>5)</sup>  
 ny [ɛn:] [n]  
 sz [ɛs:] [s]<sup>5)</sup>  
 ty [ce:] [c]  
 zs [ʒe:] [ʒ]

### 4 3つの文字で一音を表すもの

- dzs [dʒe:] [dʒ]

音声記号の中には馴染みのないものが見受けられるかもしれないが、上記の中で日本語に近似音のないものは母音の中の円唇母音を除けば、子音の [c] [ʒ] だけである。次節から順次日本語と比較して確認する。<sup>6)</sup>

入門レベルの学習者では英語あるいは日本語のローマ字表記の影響でハンガリー語のアルファベットを誤読することがよく見られる。例えば、j を [dʒ] と読んだり、[s] を sz の代わりに s で表記したりする例をよく耳にする。よく他の外国語においても試みられているように、日本語の単語や固有名詞—例えば、NAGOJA (名古屋)・SAKAI (社会)・SZAKAE (栄)・TECSÓ (手帳)・GIZSUCU (技術) など—をハンガリー語のアルファベットで書いてみるという練習も有効である。(末尾にハンガリー語による、日本語の 50 音図をつけてあるので参考にされたい。)

なお、c [tse:] や h [ha:] のように字母の名称も英語と異なるため、特に子音字は覚えておく必要がある。自分の名前の綴りを説明するときや頭字語 (BTK [be:te:ka:] [文学部] など) を読むときに字母の名称を正しく発音することが重要である。

### 3. 日本語とハンガリー語の音節構造

日本語の音節は拗音節が CCV、撥音 (ン) を末尾にもつ音節が (C) VC となる以外は (C) V 構造であり、いわゆる開音節 (母音終わりの音節) となる。それに対してハンガリー語は (C) V (V) (C) を基本として子音も (制限はあるものの) 複数現れる場合がある。子音連続は語末だけではなく、語頭にも現れることがある。CC 構造の頭子音の例として

- friiss [fri:ʃ:] [新鮮]  
klub [klub] [クラブ]  
krumpli [krumpli] [じゃが芋]  
mnemonika [mnɛmonikɔ] [記憶術]  
prém [pre:m] [毛皮]  
sport [ʃport] [スポーツ]  
sztár [sta:r] [スター]

などが挙げられる。

しかし、cs [tʃ]、dzs [dʒ]、gy [ʒ]、j [j]、l [l]、ny [n]、r [r]、ty [c]、zs [ʒ] で始まる CC 音節は確認されていない。CCC 構造の音節は以下の 7つのパターンがある。

- skrupulus [ʃkrupuluʃ] [罪の意識]  
spriccel [ʃprits:ɛl] [噴霧する、スプレーをかける]  
strázsa [ʃtra:ʒɔ] [衛兵]  
szklérózis [sklɛro:ziʃ] [硬化症]  
szkreccs [skretʃ:] [スクラッチ]  
szpré [spre:] [スプレー]  
sztrájk [stra:jɔk] [ストライキ]

二重母音は標準口語に存在しないため、母音が連続する場合、それぞれの母音を明瞭に発音する。

autó [ˈouto:] [自動車]

euró [ˈɛuro:] [ユーロ]

tea [tɛɔ] [お茶]

ただし、i [i] のあとに母音が続くと、それらの間に [j] が現れることがある。

fíu [ˈfju:] [fiu:] [男の子]

siet [ˈfijɛt] [ˈfiɛt] [急ぐ]

#### 4. ハンガリー語の音素<sup>7)</sup>

##### 4.1 母音

ハンガリー語の短母音は非円唇の i [i]、e [ɛ] と円唇の ü [y]、ö [ø]、u [u]、o [o]、a [ɔ] であり、日本語（共通語）に比べると、円唇母音が4つ多いことになる。以下は日本語の母音の位置を示している。音声記号は国際音声字母の基本母音を表している。

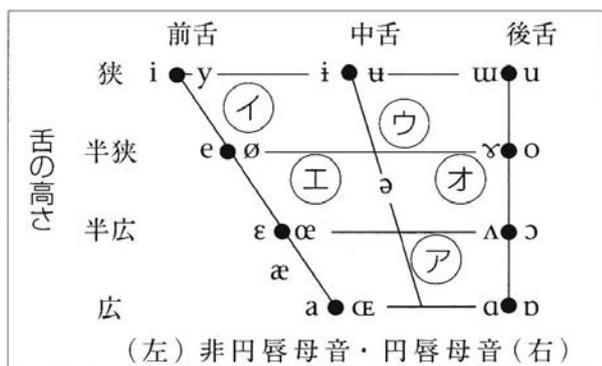


図1 ヒューマンアカデミー 2011: 390.

ハンガリー語の発音指導に当たって、[i] と [o] は、日本語の「イ」と「オ」の感覚で発音しても問題にならない。[u] は、唇を丸めた「ウ」である。<sup>8)</sup>

ハンガリー語に本来 [ɛ] の他に [e] もあり、mënték [mentek] [君たちは行く]・méntek [mentɛk] [彼らには行った]・menték [mentek] [私は助ける] などのように異なる音であり、意味弁別という役割も持っていたが、標準口語ではこの対立がなくなったため、日本語の「エ」([ɛ:] または [ɛ\_]) で代用可能である。<sup>9)</sup>

[ɔ] は（研究者によって [ɒ] とも）、広い「オ」で、大体日本語の「ア」と「オ」の間に位置づけられる。唇を「オ」の形にして（円唇化して）「ア」（舌の位置）を発音する。しかし、うまく発音できない場合、日

本語の「ア」で代用しても特に問題にならない。<sup>10)</sup> ハンガリー語に異音として非円唇の [a] もあり、外来語などに現れることがある。<sup>11)</sup>

[y] は前舌の狭母音で、[i] の構えで唇を丸めて発音する。[ø] は前舌の半狭母音で、[e] の構えで唇を丸める。この二つの母音はドイツ語、フランス語などの言語にも使われる。例えば、独語 kühl [ky:l] [冷たい、涼しい]、仏語 tu [ty] [君]、中国語 yǔ [jy] [雨]；独語 Möbel [ˈmø:bəl] [家具]、仏語 bleu [blø] [青い]、韓国語「標準音発音法」회사 [ho:sa] [会社] など。<sup>12)</sup> また、日本語の伝統的な方言にも、連母音の融合として現れるというデータがある。<sup>13)</sup>

ハンガリー語の正書法では、長母音を ö [ø:] – ó [ø:]、u [u] – ú [u:]、o [o] – ó [o:] などのように母音の上に付けられた斜めの符号（ハンガリー語で ékezet という）で表記されているが、a [ɔ]（円唇・半広）– á [a:]（非円唇・広）、e [ɛ]（非円唇・半広）– é [e:]（非円唇・半狭）の場合は長さだけではなく、音質も異なる点に注意する必要がある。

á [a:] は口を大きく開いた、長い「ア」であり、日本人の子供がカラスの鳴き声を真似するときの音に似ている。é [e:] は（「エ」より口を狭めて）「エ」と「イ」の中間の音を長く伸ばす。

以下の図は唇の形と口の開きの度合いを示している。<sup>14)</sup>

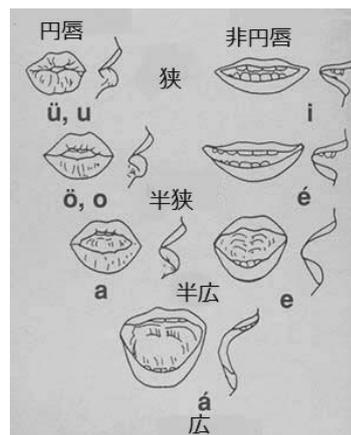


図2 Gósy 1997 より

上記のように、a と á、e と é は短長のペアをなしていないが、異音として a と e の長母音にそれぞれ [ɔ:]、[ɛ:] も観察される。この長母音は頭字語（例えば ETR）や子音 [r] を脱落させた場合などに生じることがある。共同執筆者のアルベケルにとっても balra

[bɔlrɔ] (左の方へ) よりも [bɔ:rɔ] の方が発音しやすい。他の例として

arra [ɔr:ɔ] → [ɔ:rɔ] [あちら・そちらへ]

merre [mɛr:ɛ] → [mɛ:rɛ] [どちらへ]

がある。この長母音は正書法では短母音の [ɔ] [ɛ] と区別されないため、どのような単語に生じるか、生きたハンガリー語会話などを聞いて慣れなければならないが、[ɔ] [a:] [ɔ:] [o:] の区別にも注意しなければならない。<sup>15)</sup>

ára [a:rɔ] [～の値段]

ara [ɔrɔ] [婚約者]

arra [ɔ:rɔ] [あちら・そちらへ]

óra [o:rɔ] [時計・～時・授業]

また、母音に関して注意しなければならないのは、日本語に生じる母音の無声化をそのままハンガリー語に適用することである。入門レベルの学習者に時々見られるのは、「ありがとう」を意味する köszönöm

[kɔsɔnɔm] の第一音節の母音を無声化させることである。これはハンガリー人の耳には xönöm

[ksɔnɔm] のように聞こえる。

## 4.2 子音

ハンガリー語の子音音素は

p b m f v t d s z ts n l r ʃ ʒ tʃ (dz) dʒ c ʃ j n k g h

の 25 (24) である。<sup>16)</sup> 日本語の子音音素より 9 つ多いが、その大部分は日本語の中にある。その説明には五十音図の各行を利用するのが容易であるが、それはハンガリー語のアルファベットの練習にも効果的であると考えられる。

まず、p b m t d s z は、パ行、バ行、マ行、タ行、ダ行、サ行、ザ行の音節の前子音として特に問題にならないと思われるが、サ行とザ行、タ行とダ行内にハンガリー語では音素となる音声が含まれるため注意を要する。日本語の母語話者にとっては同じ音声と認知されるが実は異質の音声であり、日本語の異音<sup>17)</sup> という認識が必要である。

### 4.2.1 日本語のサ行・ザ行にある音素

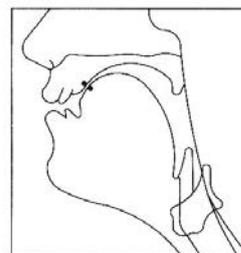
日本語のサ行の音声表記とともにハンガリー語の綴りを併記すると次のようになる。

仮名表記	サ	シ	ス	セ	ソ
音声表記	sa	ʃi	su	se	so
洪語	sza	si	szu	sze	szo

日本語ではイ段の前では拗音 ([ʃa ʃu ʃo]) の子音と同じものが現れることになるが、普通は意識されない。ハンガリー語では (英語などと同様に) 音素 /s/ が /i/ の前に立つことがあり、その場合は日本語にない [si] である。すなわち、サスセソの子音がイの前につくと [si] を得ることが出来るという理解で良い (綴りは *szi* で表記する)。ウ段の子音をイ段にもっていく方法としてよく利用される方法は、スイ [su + i] と言って、真中の母音 [u] を抜き、スイ [si] を得るといふのである。

この [si] が有声音になったものが [zi] である。[z] は英語の [z] の感覚で良いがこれは摩擦音であり、ザ行にある破擦音 (破裂音プラス摩擦音) [dzi] とは異なるので注意したい。

また [ʃ] の有声音は [ʒ] (zs) であり、日本語ではザ行のイ段 ([dzi])、拗音 ([dʒa dʒu dʒo]) 内の子音が母音間で摩擦音化された子音 [ʒ] ([z] と表記される場合も) がこれに近いと、代用可能である。<sup>18)</sup> 同じような発想がハンガリー人を対象とした日本語教育にも利用されることがある。例えば、山地 (Jamadzsi 1988) は母音間の「ジ」はハンガリー語の [ʒ] で発音すれば良いと説明している。



[ʃ]~[ʒ]

図3 小泉保 1996: 51.

日本人は [i] の前では自動的に [ʃ] になるため、[s] の音素をしっかりと言えるように練習する必要がある。[si] (szi) と [ʃi] (si) の違いが語の意味を変える例を挙げておく。

sír [お墓・泣く] ≠ szír [シリア人・シリアの]

sín [線路] ≠ szín [色]

#### 4.2.2 日本語のタ行・ダ行にある音素

ハンガリー語の音素 /tʃ/ と /ts/ は次のタ行の中にある。

仮名表記	タ	チ	ツ	テ	ト
音声表記	ta	tʃi	tsu	te	to
洪語	ta	csi	cu	te	to

前者については前節で見たように、イ段においてのみ、対応する拗音に見られる [tʃ] が異音として日本語では使用されている。また [ts] は [ɰ] 以外の音声との組み合わせは日本語には存在しないため、これだけを取り出すのは難しそうではあるが、まず日本語で、[si] の発音方法と同様に

ツァ ツィ ツ ツェ ツォ  
 [ tsa tsi tsu tse tso ]  
 ( ca ci cu ce co )

と練習をしてカタカナから音声記号と綴りに慣れることが求められる。そのあと、ハンガリー語の母音 [ɔ] [ɛ] (日本語のエでも可) [ø] [u] [y] を組み合わせれば良い。

同様に、ダ行を見てみると

仮名表記	ダ	ヂ	ヅ	デ	ド
音声表記	da	dʒi	dzu	de	do
洪語	da	dzsi	dzu	de	do

[ʃ] の有声音の [ʒ] (zs) に [d] がついた [dʒ] と [ts] の有声音 [dz] がハンガリー語の音素として存在するが、共に日本語のザ行のイ段とウ段にある音声と同じである。

#### 4.2.3 日本語のナ行にある音素

日本語の子音「ニ」/ni/ は実は [nʲi] と書かれるように、強調すると

仮名表記	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
音声表記	na	nʲi	nu	ne	no
洪語	na	nyi	nu	ne	no

であり、やはり対応する拗音の [na nu no] の子音とほぼ同じである。ハンガリー語の [ni] (ni) の子音は日本語の「ニ」と違い、歯茎音である。日本語の「ニ」は

ハンガリー人の耳に [ni] (nyi) に聞こえる。<sup>19)</sup> (ここでもよく利用される方法は、ヌイ [nu + i] と言って、真中の母音 [ɰ] を抜き、ヌイ [ni] を得るというのがある。)

[ni] と [ni] の違いは語の識別にもかかわる。例えば、  
**enni** [食べること] (不定形) ≠ **ennyi** [こんなに多くの]  
**menni** [行くこと] (不定形) ≠ **mennyi** [どのくらいの]

#### 4.2.4 日本語のハ行にある音素と鼻濁音

ハ行は、元は両唇音であったため調音場所は次のように3カ所にわたっている。

仮名表記	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
音声表記	ha	çi	ɸu	he	ho
洪語	ha	hi	fu	he	ho

すべて摩擦音で、[ç] は硬口蓋音、[ɸ] は両唇音、他は声門音である。ハンガリー語の子音 [hi] [hu] [hy] などは「ハヘホ」の子音で発音しなければならない。入門レベルの学習者は [hu] [hy] を「フ」で発音しがちであるが、「フ」は [f] として認識されるため、

[hy:tø:] (hútó) [冷蔵庫]

[fy:tø:] (fütó) [機関員・火夫]

などのように誤解を招く恐れがあり、正しい発音を身に付ける必要がある。

また、幾つかの例外を除き語末の h [h] は発音されない。

**cseh** [tʃɛ] [チェコ人・チェコ語・チェコの]

**juh** [ju] [羊]

**méh** [me:] [蜜蜂]

複合語を作るときや子音で始まる接尾辞を付ける場合も無音である。例としては

**Csehország** [tʃɛrorsa:g] [チェコ]

**juhakol** [juɔkol] [羊小屋]

**juhval** [juvɔl] [羊と・で]

**méhkas** [me:kɔʃ] [養蜂箱]

など。しかし、母音で始まる接尾辞がつく場合、h [h] が発音される。

**csehek** [tʃɛhɛk] [チェコ人]

**juhász** [juha:s] [羊飼]

語末の h は [x] と発音される例。

**Allah** [ɔl:ɔx] [アッラー]

doh [dox] [カビの臭い]

sah [ʃox] [シャー]

一部の日本人には鼻濁音（鼻にかかったグの音 [ŋ]）をもつ人がいるが、ハンガリー語では使用しない。例えば、「大鳥」「その後」の語中の [g] は鼻濁音 [ŋ] にならないので注意。

#### 4.2.5 日本語にない音素

日本語にない音素でハンガリー語にある音素は / f v r l c ʃ / の6音素である。最初の [f] は日本語のフの子音 ([ɸ]) で代用しても通じるが、[v] に関しては [b] と対立的分布を示しその違いが意味を担う場合があり、重要である。いくつか最小対立ペアを以下で示す。

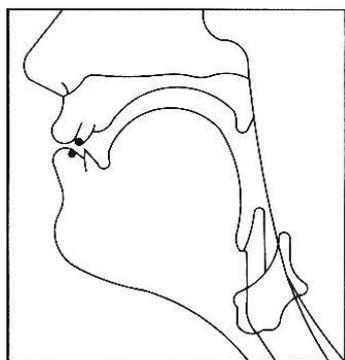
vár [待つ・お城] ≠ b<sup>h</sup>ár [バー・バル・～ではあるが]

volt [有った、居た] ≠ b<sup>h</sup>olt [お店・スーパー]

káyé [珈琲] ≠ kábé [大体、約]

これらの両唇音は歯と下唇との摩擦をするという練習をすることで身に付く音声であり、フの発音より容易な音である。

日本語の「ワ」の子音 ([w]) がハンガリー語にないため、[w] が現れる日本の地名・人名などはハンガリー語で [v] で代用されており、ローマ字表記としては v で転写されることがある。フの子音 ([ɸ]) も同様に [f] で代用され、f で表記される。



[f]~[v]

図4 小泉 1996: 49.

[l] と [r] に関しては日本語のラ行の子音で代用するとこのどちらの音声も環境によって生じるので混乱を招く。<sup>20)</sup> この2音の対立による単語の識別を迫られる場合もある。例えば、

arany [黄金] ≠ alany [主語]

nyár [夏] ≠ nyál [涎]

régi [古い] ≠ légi [航空～]

ró [刻む] ≠ ló [馬]

sár [泥] ≠ sál [マフラー]

szeret [好きだ] ≠ szelet [(パン・肉等の) 切れ]

[r] [l] の練習法として言語学入門書の説明をいくつか紹介したい。まず、[r] に関して

- ・「ルルルル」([rrrr]) と舌先を振るわす (小泉 1996: 57)
- ・[tra] [dra] のように [r] の前に歯茎破裂音を付けて練習する (加藤ほか編 2016: 84)
- ・早口で「札幌ラーメン」と繰り返して練習する (加藤ほか編 2016: 84)

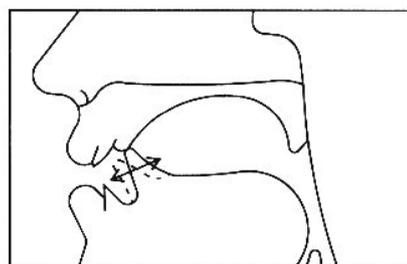


図5 小泉 1996: 57.

[l] は舌先を歯茎に付けたままで息を舌の両側から出してみる (小泉 1996: 55)。

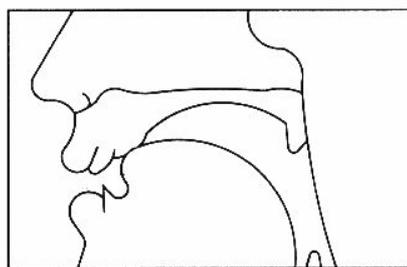


図6 小泉 1996: 55.

[c] と [ʃ] は硬口蓋破裂音で、音声学の入門書ではハンガリー語の子音として紹介されることがある。<sup>21)</sup> この両音は無声・有声という関係にあるが、ハンガリー語の正書法では ty / gy で綴られる。後者はヘボン式ローマ字の gya / gyu / gyo と混同されないように注意したい。

[c] と [ʃ] の発音法を共同執筆者のアルベケルは「キャ」と「テャ」(有声の場合「ギャ」と「デャ」)の間にあると指導しているが、上記入門書でも [c]

([ɟ]) は [k] ([g]) と [t] ([d]) の間にあると解説している。<sup>22)</sup>

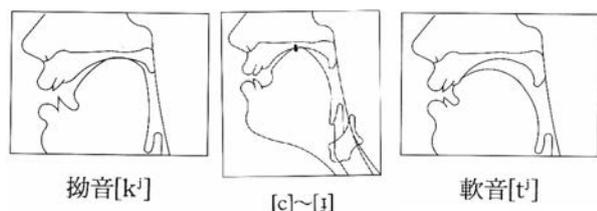


図7 小泉 (1996: 78, 45, 81)

ハンガリー語の入門書においても、例えば「にゅ」というときのように舌を上あごに広くつけて「テュ」「デュ」と発音すると説明しているものもある。<sup>23)</sup>

余談であるが、[c] ty で始まる単語が標準口語に多くなく、例えば大学付属図書館に所蔵されている Magyar-angol kéziszótár [洪英辞典] で ty の項目を見ると、見出し語は合計 16 語しかなく、そのうち 15 語は tyúk [cu:k] [雌鶏] か、それが含まれている単語である。<sup>24)</sup>

以上は子音の指導において特に練習を必要とする音韻である。<sup>25)</sup>

### 4.3 子音の同化と融合

ハンガリー語で隣同士にある子音がお互いに影響し合って発音が変化することがあるが、この変化が綴りに反映される場合とそうではない場合がある。以下で後者をまとめることにする。

#### ① 部分同化

a. 有声化：無声子音+有声子音→有声子音+有声子音

cukrászda [tsukra:zɒ] [ケーキ屋さん]

zsákban [ʒa:ɡbɒn] [袋の中に]

v の場合、この変化が生じない。

akvárium [ɒkva:riʊm] → 変化なし [水槽]

hatvan [hotvɒn] → 変化なし [六十]

kvarc [kvɔrts] → 変化なし [石英]

ösvény [ɒʃve:ɲ] → 変化なし [小道]

b. 無声化：有声子音+無声子音→無声子音+無声子音

biztos [bistoʃ] [絶対]

nagy kalap [nɒc kɒlɒp] [大きな帽子]

この場合 v も無声化する。

távkapcsoló [ta:fkɒptʃolo:] [リモコン]

c. 鼻音同化：/n/ が p, b, m の前で [m] となる。

azonban [ɒzɒnbɒn] [しかし]

színpad [sɪmpɒd] [舞台]

/n/ が k, g の前で [ŋ] となる。

hang [hɒŋg] [音・声]

fánk [fa:ŋk] [ドーナッツ]

/n/ が ty, gy の前で [ɲ] となる。

langyos [lɒɲɔʃ] [ぬるい]

ponty [pɒɲc] [鯉]

#### ② 完全同化

a. 逆行同化：

l + j → [j:] tanulj [tɒnuj:] [勉強しなさい]

ll + j → [j:] állj [a:j:] [止まりなさい]

sz + s → [ʃ:] egészség [ɛʒe:ʃ:e:g] [健康]

t + c → [ts:] utca [uts:ɒ] [通り]

t + cs → [tʃ:] öt cseh [ɒtʃ:ɛ] [チェコ五人]

z + s → [ʃ:] igazság [igɒʃ:a:g] [真実]

b. 順行同化：

gy + j → [ɟ:] higyi [hiɟ:] [信じなさい]

ny + j → [ɲ:] anyja [ɒɲ:ɒ] [彼の母]

ty + j → [c:] bátyja [ba:c:ɒ] [彼の兄]

#### ③ 融合

a. 口蓋化：

d + j → [ɟ:] családja [tʃɒla:ɟ:ɒ] [彼の家族]

n + j → [ɲ:] telefonja [tɛlʃɒn:ɒ] [彼の電話]

t + j → [c:] szeretjük [sɛrɛc:yk] [私たちが好きである]

b. 破擦音化：

d + s → [tʃ:] szabadság [sɒbɒtʃ:a:g] [自由・休暇]

d + sz → [ts:] adsz [ɒts:] [君が与える]

gy + sz → [ts:] gyógyszer [ɟo:ts:ɛr] [薬]

t + s → [tʃ:] [tʃ] költség [kɒltʃe:g] [支出、費用、経費]

t + sz → [ts:] ötször [ɒts:ør] [五回]

しかし、融合・同化は必ず起こるとは限らない。例えば、複合語の hadjárat [hɒdja:rɒt] [(軍事的) 遠征]、Margitsziget [mɒrgit sigɛt] [マルギット島]

(ブダペストにある)、hátszél [ha:tse:l] [追い風]などは綴り通りに発音される。また、長子音の前後に別の子音が来ると、短音化する。

jobbra [jɒbrɔ] [右へ]

otthon [oθon] [家で]

sarkkör [ʃɔrkør] [(北・南) 極圏]

verssor [vɛrʃor] [詩行]

一方、綴り上は短子音であるが、実際は長子音として発音されることもある。

egy [ɛj:] [一]

kisebb [kiʃ:ɛb:] [より小さい]

lesz [lɛs:] [～になる]

上記の単語の他に母音間の dz、dzs も長子音化する。

edző [ɛdz:ø:] [コーチ]

madzag [mɔdz:ɔg] [紐]

maharadzsa [mɔhɔrɔdʒ:ɔ] [マハラジャ]

ただし、単語によって dzs は短音として発音されることがある。<sup>26)</sup>

fridgeside[r] [冷蔵庫]

## 5. アクセントとイントネーション

高低アクセントである日本語と異なり、ハンガリー語は英語と同じく強弱アクセントの言語である。ハンガリー語の場合、単語におけるアクセントは基本的に単語の第一音節にあるが、定冠詞 a・az、接続詞 meg、is 「も」は無アクセントである。文のイントネーションに関してはすでに適切な解説を読むことができるので、今回はそれらに譲りたい。<sup>27)</sup> 基本的には日本人にとって文の抑揚に関しては難しくなく単音、連音ほどに誤解されることはないようである。

## 注

1. 2019年度のシラバスによる。
2. アジア・アフリカ言語文化研究所では1982・1997・2017年に、愛知産業大学短期大学では2015年に開講された。
3. 音素とは「語の意味を区別する働きのある最小の音声単位」である(小泉 1996: 142)。音素の表記は記号を斜線(スラッシュ)内に入れて示すことになっているが、本稿では一部誤解のないように使用するのみで音声はブラケット([ ])内に表示する。
4. アルファベット一覧とその名称は入門書等の語学書を

参照されたい。

5. 子音文字のあとの [:] は二重子音を表す。日本語の促音ほどつめて発音しない。
6. アルファベットの音声ファイルとして早稲田・バルタ(2011)のCDトラック③を参照されたい。
7. ハンガリー語には母音音素の数は14ある。子音音素は25とする場合が多いが、最近の研究では /dz/ を音素として認められていない。É. Kiss Katalin et al. (2003: 3.2.3.3.2.3)、Kiefer Ferenc et al. (2006: 2.1.2.1.3) など。
8. 日本語のウ [u] はIPA(国際音声字母)の表す [u] の位置より少し前、少し下で発音される非円唇母音(唇を丸めないで発音する音声)である。例えば牧野(2005: 29)など。
9. この [e] を [ɛ] と区別するために ë で表記されることがある。
10. 日本語の [a] はIPA(国際音声字母)の表す [a] よりやや後ろ、少し上で発音される音声とされる。例えば、牧野(2005: 29)など。
11. 「非円唇で短母音の [a] は主として年配者層もしくは外国語をよく使うアナウンサーの発音に現れる。」Kiefer Ferenc et al. (2006: 26.3.26.3.1.26.3.1.1.)
12. ただし、ɔ [ø] と ɔ [y] は [we] と [wi] として発音されることが多い(李ほか 2004: 72)。
13. 岐阜弁 [aø:] [青い](平山ほか 1997: 46)、[usy:] [薄い](同上 1997: 55)。愛知の方言(調査地点は名古屋市) [aø:] [青い](同上 2013: 78)、[usy:] [薄い](同上 2013: 87)、[ugy:sw] [篤](同上 2013: 87)など。(引用データのアクセント表記を省略。)
14. 母音の音声サンプルとして岡本(2013)のCD1トラック②~④、早稲田・バルタ(2011)をトラック④参照されたい。
15. 正書法は実際の発音を反映しない例はほかにもある。例えば、forró [fo:ro:] [熱い] óvoda [ovodɔ] [幼稚園] tűzoltó [tyzolto:] [消防士] など。
16. ハンガリー語の音素表記 /c/ (そして音声表記 [c]) は、日本語でタ行イ段、ウ段にある音素として /c/ と表記するものと異なる音素を表しているので注意。
17. 音声(話し言葉で使用される最小単位の音)としては異なっても意味の違いを生じさせない音声を異音と言う。日本語のン(語末や、単独で発音する時など)口の奥で発音される口蓋垂鼻音 [N] であるが、看板、簡単、還元の中の「ン」の違いはそれぞれ

れ

[kambaN] [kantaN] [kaŋgeN]

と4種類の音声となる。日本人は同じ「ん」と捉えているが、この場合、[m] [n] [ŋ] [N] は音素 /N/ の異音である。ただし、[N] 以外のこれらの同じ音声が母音の前で使用されたときはそれぞれ別の音素と認識することになる。

18. 例えば広島市方言では語頭にも現れることがある。  
[ɕikaN] [時間]、[ɕiɸiN] [地震] など (平山ほか 1998:167)。印刷の都合で語末の記号は簡略化してある。
19. 西日本で生育した人の中には、ニを歯茎音 [ni] で発音する人が多く見られるという (工藤ほか 1993: 144)。
20. 日本人が綴りの L と R を区別しない、その音声を聞き分けられないというのは有名である。このような逸話もある。ハンガリーの某大学の日本語入門クラスで日本人講師が日本語の文字体系についてハンガリー語で説明を行ったところ *alap betűk* (基本文字) のつもりで言ったことばが *arab betűk* (アラビア文字) に聞こえてしまい、受講者を混乱させた。  
(Sándor Klára 2014: 43)
21. 小泉 (1996: 45-46)、加藤・安藤 (2016: 27-28) など。
22. 加藤・安藤 (2016: 28)。
23. 岡本 (2013: 4-5)。
24. Ország 1976: 1066.
25. 子音の音声サンプルとして岡本 (2013) の CD 1 トラック⑤～⑦、早稲田・バルタ (2011) トラック⑤～⑥を参照されたい。又、研究社のホームページから加藤・安藤 (2016) の音声サンプルもダウンロードできる。
26. 子音の音変化に関しては、早稲田・バルタ (2011) トラック⑧を参照されたい。
27. 早稲田みか (1995:22; 118-129) を参照されたい。

## 引用文献

- 李翊雯 (イ・イクソプ) ほか (2004) 『韓国語概説』 (前田真彦訳) 大修館書店
- 岡本真理 (2013) 『ハンガリー語』 (世界の言語シリーズ 8) 大阪大学出版会
- 加藤重弘・安藤智子 (2016) 『基礎から学ぶ音声学講義』 研究社

- 工藤浩ほか (1993) 『日本語要説』 ひつじ書房
- 小泉保 (1996) 『音声学入門』 大学書林
- 平山輝男ほか (1997) 『岐阜県のことば』 (日本のことばシリーズ 21) 明治書院
- 平山輝男ほか (1998) 『広島県のことば』 (日本のことばシリーズ 34) 明治書院
- 平山輝男ほか (2013) 『愛知県のことば』 (日本のことばシリーズ 23) 明治書院
- ヒューマンアカデミー (2011) 『日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド 第二版』 翔泳社
- 牧野武彦 (2005) 『日本人のための英語音声学レッスン』 大修館書店
- 早稲田みか (1995) 『ハンガリー語の文法』 大学書林
- 早稲田みか / バルタ・ラースロー (2011) 『ニューエクスプレスハンガリー語』 白水社
- 早稲田みか / コヴァーチ・レナータ (2019) 『ハンガリー語の入門 改訂版』 白水社
- 渡辺克義 (2017) 「ハンガリー語およびフィンランド語の学習教材」 『山口県立大学学術情報』 第 10 号、pp.141-146.
- É. Kiss Katalin et al. (2003) *Új Magyar nyelvtan*. Osiris Kiadó. オンライン版、最終閲覧 2019 年 11 月 25 日  
[https://www.tankonyvtar.hu/hu/tartalom/tamop425/2011\\_0001\\_520\\_uj\\_magyar\\_nyelvtan/adatok.html](https://www.tankonyvtar.hu/hu/tartalom/tamop425/2011_0001_520_uj_magyar_nyelvtan/adatok.html)
- Gósy Mária (1997) “A beszédhangok.” in Dr. Sipos Lajos et al, *Magyar nyelv és irodalom*. KERTEK 2000 Könyvkiadó. オンライン版、最終閲覧 2019 年 7 月 16 日  
<https://www.arcanum.hu/hu/online-kiadvanyok/pannon-pannon-enciklopedia-1/magyar-nyelv-es-irodalom-31D6/a-mai-magyar-nyelv-rendszere-3615/a-beszedhangok-gosy-maria-3617/>
- Jamadzsi Maszanori (1988) *Japán nyelvkönyv*. Tankönyvkiadó.
- Kiefer Ferenc et al. (2006) *A magyar nyelv*. Akadémiai Kiadó. オンライン版、最終閲覧 2019 年 7 月 17 日  
[https://www.tankonyvtar.hu/hu/tartalom/tamop425/2011\\_0001\\_536\\_MagyarNyelv/adatok.html](https://www.tankonyvtar.hu/hu/tartalom/tamop425/2011_0001_536_MagyarNyelv/adatok.html)
- Máté Zoltán (2009) “Japán - magyar, magyar - japán szótárak, szógyűjtemények.” In Farkas Ildikó, Szerdahelyi István, Umemura Yuko, Wintermantel Péter, *Tanulmányok a magyar-japán kapcsolatok történetéből*. Budapest, Eötvös kiadó, pp. 511-529.
- Ország László (1976) *Magyar-angol kéziszótár. Hetedik kiadás*. Budapest, Akadémiai kiadó.

Sándor Klára (2014) *A székely írás nyomában*. Budapest,  
Typotex.

The Phonemes and Pronunciation of the  
Hungarian Language  
—A Guide for Japanese Learners—  
SHIMOUCHI Mitsuru and  
ALBEKER András Zsigmond

付表 ハンガリー語のアルファベットと 50 音図

ア	イ	ウ	エ	オ
a (アとオの間)	i	u (唇を丸める)	e	o
カ	キ	ク	ケ	コ
ka	ki	ku	ke	ko
ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ
ga	gi	gu	ge	go
サ	シ	ス	セ	ソ
sza	si	szu	sze	szo
ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ
dza (母音間は za)	dzsi (母音間は zsi)	dzu (母音間は zu)	dze (母音間は ze)	dzo (母音間は zo)
タ	チ	ツ	テ	ト
ta	csi	cu	te	to
ダ	ヂ	ヅ	デ	ド
da	dzsi (母音間は zsi)	dzu (母音間は zu)	de	do
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
na	nyi	nu	ne	no
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
ha	hi (子音はハへホと同じ)	fu (歯と下唇との摩擦)	he	ho
バ	ビ	ブ	ベ	ボ
ba	bi	bu	be	bo
パ	ピ	プ	ペ	ポ
pa	pi	pu	pe	po
マ	ミ	ム	メ	モ
ma	mi	mu	me	mo
ヤ		ユ		ヨ
ja		ju		jo
ラ	リ	ル	レ	ロ
ra	ri	ru	re	ro
ワ				
va (歯と下唇との摩擦)				

## ハンガリー語の音素と発音

キヤ		キュ		キョ
kja		kju		kjo
ギャ		ギュ		ギョ
gja		gju		gjo
シヤ		シュ		ショ
sa		su		so
ジヤ		ジュ		ジョ
dzsa (母音間は zsa)		dzsu (母音間は zsu)		dzso (母音間は zso)
チャ		チュ		チョ
csa		csu		csó
ヂヤ		ヂュ		ヂョ
dzsa (母音間は zsa)		dzsu (母音間は zsu)		dzso (母音間は zso)
ニヤ		ニュ		ニョ
nya		nyu		nyo
ヒヤ		ヒュ		ヒョ
hja		hju		hjo
ビヤ		ビュ		ビョ
bja		bju		bjo
ピヤ		ピュ		ピョ
pja		pju		pjo
ミヤ		ミュ		ミョ
mja		mju		mjo
リヤ		リュ		リョ
rja		rju		rjo